

平成 27 年 2 月 17 日  
国立情報学研究所  
学術コンテンツ課

## 今後の目録システム講習会全体の考え方について

国立情報学研究所（NII）では、NACSIS-CAT の参加にあたって目録システム講習会受講を条件とし、大学と共同で講習会を開催してまいりました。

講習会開催の改善は以前から検討されており、平成 18 年度には e-learning 手法を大幅に導入するとともに実効性の高いプログラムを設定すべきであるという提言<sup>1)</sup>を受けました。

NII では、その後、e-learning コンテンツの作成を進めてまいりましたが、この度、平成 26 年度の開発を以って、NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング（SL）教材が完成いたしました。

また一方、(1)年々講師確保が困難になっている等、地域講習会開催の負担が増大している、(2)近年、受講者の属性・レベルにばらつきが生じており、講習会運営が困難である、といった現状や、NACSIS-CAT への書誌登録機関に偏りがあるといった分析<sup>2)</sup>に基づき、より実効性の高い講習会を開催するため、今年度「目録システム講習会検討ワーキンググループ」を設置し見直しを行いました。

今後の目録システム講習会開催の方針は、次の通りです。平成 27 年度の目録システム講習会については別添をご確認ください。

(1) 目録システム講習会は SL 教材で実施する。SL 教材は目録システム講習会と同等のものであり、SL 教材 CAT 編の修了者は目録システム講習会修了者と同等とする。利用細則<sup>3)</sup>第 2 条で定められた「国立情報学研究所が実施する目録システム講習会の修了者が責任をもち、総合目録データベースの品質管理を行うこと。」という条件を満たすためには、少なくとも 1 名以上の担当者が従来の目録システム講習会を修了するか、SL 教材 CAT 編を修了する必要がある。

(2) 従来の集合研修型の目録システム講習会は、平成 27 年度は地域講習会開催を希望する地域と NII との共催で開催し、平成 27 年度を以って終了する。

(3) 平成 27 年度からは、多様な書誌事例について理解を深め、知識・技能を修得するための集合研修を試行する。目録システム書誌作成研修の受講対象は、新規書誌作成数の多い機関の担当者を想定する。

(4) 目録業務担当者が共通に理解しておくべき、総合目録データベースの構成、内容、データ登録の考え方を修得する研修など、SL 教材を補完する講習会を自主開催する場合は教育研修事業要綱に掲載することができる。

---

<sup>1</sup> 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討ワーキング・グループ最終報告  
[http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/cat-tr-wg/last\\_report.pdf](http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/cat-tr-wg/last_report.pdf)

<sup>2</sup> 佐藤 義則. 次世代目録所在情報サービスの方向性.  
[http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/event/images/lokuken\\_4\\_summary.pdf](http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/event/images/lokuken_4_summary.pdf)

<sup>3</sup> 国立情報学研究所目録所在情報サービス利用細則  
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/join/pdf/saisoku.pdf>